

店名の通り大きな窓が目印。本のショーケースも兼ねています



子供から大人までお楽しみいただける
素敵な絵本や図鑑を取り揃えています

窓辺の絵本屋Canon

コロナ禍に負けることなく、元気に明るく頑張る和光市の商店や事業所。今回は、2020年3月にオープンした小さな絵本専門店、その名も『窓辺の絵本屋Canon(カノン)』のご紹介です。

25年前から夫と二人三脚で学校の教材を扱う平塚教材社を営んできた平塚 佳子さん。2018年、現在の地への引っ越しをきっかけに「いよいよ夢を実現するときがきた」と確信したといいます。その夢が、絵本のお店を開くこと。

「20代のころからずっと“いつかは絵本のお店を開きたい”と考えていたのですが、教材社の仕事も忙しくなかなか実現できずにいました。こちらに引っ越してきて入口の大きな窓を見た瞬間、この窓辺に絵本を飾るイメージが一気に広がったんです」と平塚さん。

開店を決めた平塚さんは、以前から行っていた絵本の勉強に加え、お店を開くための勉強を開始。内外装のデザインは空間デザインを手がける息子さんがプロデュースしてくれたのだとか。

絵本屋さんを始めたいと思った理由のひとつに、自身の育児中に「絵本が少ない」と感じたことという平塚さん。だからこそ、親子でゆっくりと絵本を



▲店内の本はすべて平塚さんご自身が自らセレクト。一冊一冊に深い愛着があります



▲とくにおすすめの絵本をピックアップしていただきました。興味のある方は急いでお店へ!



▲「親子で、お一人で、ゆったりと本を選ぶのが当店の魅力です」と平塚さん



▲さまざまなジャンルの図鑑も充実。子供から大人まで楽しめる本屋さんです



【窓辺の絵本屋Canon】

丸山台1-8-11 フジハイネス103 ☎090-7266-9505
営業時間/11:00~18:00 定休日/不定休

窓辺の絵本屋Canonからのお知らせ!

11月中、店内の商品を1冊以上ご購入の方にサクラクレパス消しゴムを2個プレゼントします。購入時に「広報わこうを見た」とお伝えください!

レトロ感あふれるサクラクレパスの消しゴム▶



選べる空間にこだわりました。「まるで自宅にいるような雰囲気ですので、周りの目や声を気にせずゆっくりとお選びください」と笑顔を見せます。

親子だけでなく、大人のお客様が一人来店されるケースも多いとのこと。「大人にこそ絵本が必要なのではないでしょうか。忙しい毎日のなかで、たまに童心に帰って絵本を開いてみてください。楽しい気持ち、やさしい気持ちに出会えるかもしれません」と目を細めます。最後に和光市民の皆さんへ、こんなメッセージをいただきました。

「子供だけでなく大人も楽しめる絵本、他ではなかなか見つからない海外の絵本、好奇心が刺激されるような図鑑など、皆さまに喜んでもらえるような本を取り揃えてまいります。小さいながらも居心地の良いお店を目指しておりますので、ぜひお気軽にご来店ください!」。

今回は、おふくろの味と全国各地のワンカップ地酒が楽しめる『おかんの台所』です!

今回の取材の様子を動画で公開します。ぜひご覧ください
(YouTube)▶



しばさき市長の 一歩前へ! 14

越戸川まつり



3年ぶりに開催となった、越戸川まつりに参加しました。当日は朝から気温が高く、清々しい青空のもと、ムジカ・ドマーニによる歌唱により、まつりが幕開けとなりました。皆さんで歌う「ふるさと」を聴くと、いろいろな思い出がよぎります。

すぐに川での魚取りが始まりました。たくさんのお子さん、大人の方が網を持って川に入っていきます。上から見てみると魚の泳いでいる様子がよく見えますが、近くにいとわからない様で、なかなか捕まりません。それでも小さなフナやオキアミがとれたと、近くにいたお子さんが嬉しそうに見せてくれました。

越戸川は、新河岸川に流れ込む川で、以前は水質も悪く、生息している生き物も多くはありませんでした。そんな中、埼玉県「川の国応援団」に登録されている「和光自然環境を守る会」が、定期的な清掃活動やさまざまな活動をされ、川がきれいになったという経緯があります。今ではカモやアユ、コイなど多くの生き物が見られる清流となりました。

都内からほど近い和光市で、アユが生息している川があることは地域の誇りです。ぜひ越戸川のカモやアユに会いに来てみてください!



和光市の 第30回 歴史・民俗を たずねて

和光市の「獅子舞」と「お囃子」

生涯学習課 文化財保護担当
☎ 424-9119
✉ h0300@city.wako.lg.jp

様々なお祭りが開かれる季節です。今回のおはなしでは、市内のお祭りで皆さんが目にすることがあるかもしれない、「獅子舞」と「お囃子」を紹介します。

ささら獅子舞

市で唯一の獅子舞です。太鼓・笛・ささら(丸竹の先を細かく割いた楽器)の音の中、大獅子・中獅子・女獅子の3匹の獅子舞が舞います。室町時代から始まったと伝えられ、厄除け・豊年祝い・安全祈願など、今でも下新倉の人々の強い思いによって支えられています。毎年、下新倉氷川八幡神社に奉納されます。

白子囃子

江戸時代末期に、白子宿の柴崎 音次郎により始められました。神田明神の祭囃子に魅せられた音次郎が、これを白子の青年にも伝えたいと、神田囃子の笛の名手を師匠として迎え、白子囃

子が生まれました。毎年、諏訪神社祭と熊野神社祭に奉納されます。

- どちらも市指定文化財(郷土芸能)に指定されています
- 新型コロナウィルスの感染状況により、奉納は縮小や中止されている場合があります



ささら獅子舞



白子囃子